

地域活性化という「遊び」

32

京都市
福知山市 「みわ・ダッシュ村」から

山本晋也

筆者プロフィール

1968年、京都生まれ。美術大学を卒業して渡米後、京都で現代美術作家として活動。そのかわらオーガニックレストランを経営するも食材を種から作ってみたいとなり、京都市内で畑を始める。結婚して3人の子供を授かったころ、農業生産法人みわ・ダッシュ村の清水三雄と出会い、福知山市の限界集落に移住。廃屋を修繕しながら家族で自給自足を目指す。土と向き合ううち田畑と山や川、個人とコミュニティの関係やその重要性に気がつき、田舎も都会もすべて含めた「大きな意味での自給」を強く意識するようになる。この考え方は、美術家時代にドイツの現代美術家ヨゼフボイスのすべての人々が参加して創り上げる社会彫刻という概念に影響を受けた。現在みわ・ダッシュ村副村長。

「」 ちらにきてから9年
移住当初に作ったウッドデッキ

キヤ

薪ストーブを置くために改造した屋根などが

経年劣化で

修理が必要になってきました。

あまりに傷みの激しいものは

近年上陸が増えつつある

台風の影響も考慮し

補強を兼ねて

建て直すこともあります。

当時は周りに反対する人も多かった

のです

子供たちに3歳の頃から包丁やナイフを持たせ

小学校時代はゲームなどの代わりに

ノコギリや鉋かまを

おもちゃに遊んできた子供たちが

今では丸ノコやインパクトドライバ

ーなどの

電動工具を使いこなすようになり

連日ギョングンバリバリと音を立てながら

すばらしいスピードで

いろいろなと修復を進めています。

今では、反対された時代が嘘のよう

に、

どう育てたらそんなふうにできるよ

うになるの？

と聞かれるようになりました。

振り返ってみると

あまり深く考えたことはなく

ただ子供たちにチャンスを与えたい

いうことはしてきたと思います。

チャンスというと

一般的には成功につながるイメージ

ですが

僕にとっては



ケンカもしますが協力するところでは協力し合ってどんどん仕事を進めていきます。

僕にとっては

失敗はチャンスの一つ

再挑戦が子供を育てる

失敗することもチャンスの一つだと思っていて

むしろこちらの方が大切なんじゃないかな

いかとさえ思っています。

失敗ほど身をもって学べることはないし

失敗をもとに再挑戦をすれば

次は必ず以前より上手くできます。

次は必ず以前より上手くできると書きましたが実は以前より悪くなる場合もあります。

それが何度も繰り返すと

それが何度も繰り返すと



■ 電動工具だけでなくカンナなどの手道具も使います。



■ 13歳ですが高いところもインパクトドライバーも慣れたもの。

とても辛い状況に陥るのですが
その場合一度だけの失敗よりも
もっと多くの学びがあります。
ただ大人になると
いくら経験を積んで学んでも
いくらデータを集めても
失敗するか成功するかは
「やってみななければわからない」と
いう状況に直面することが
少なからず出てきます。
そうなった時
とりあえずやってみて
失敗したらそこから学び
成功する方法を考えればよい
というふうに分けられれば

とりあえず前に進むことができるで
しょう。
とは言っても僕も人間ですから
失敗したことでもつい叱ってしまうこ
ともありました。
しかし
再挑戦のチャンスは必ず与えるよう
に心がけてきました。
それは子供が成長した今でも
全く同じです。
先 日雨樋を取りつける機会があ
ったので
僕がやってもいいのですが
子供たちにやらせてみました。
勾配を考えながら
雨樋の出をきつちりと揃えるのは
大人でもなかなか難しいので
18歳と16歳が初めて挑戦して綺麗に
できるわけがありません。
しかし
それを承知でわざわざ
失敗するチャンスを与
えてみたのです。
一度目は見事に失敗
横から見ると雨樋がね
じれたり波打ったりし
ています。
失敗は失敗ですし
もうそこそこの年齢で
すから
「考えが足りない！」
もちろん叱りますが



■ 二度目はピシッと決まりました！

幸い2箇所取り付けがありましたの
で、もう一度チャンスを与えてみま
した。
すると今度はどうでしょう。
大人でもここまでできるかな？
というくらい美しく
真っ直ぐ取り付けられていました。
一度目の失敗があつてこそその
大成功。
そんなことを僕のような大人が
わかったふうには
いちいち解説しなくても
失敗のチャンス
再挑戦のチャンス
再再挑戦のチャンス
大人が出しゃばらず
子供にどんどん
いろんなチャンスを与えてやれば
子供は果てしなく
伸びていく気がします。